【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成30年2月15日(2018.2.15)

【公開番号】特開2017-195924(P2017-195924A)
【公開日】平成29年11月2日(2017.11.2)
【年通号数】公開・登録公報2017-042
【出願番号】特願2016-86792(P2016-86792)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成29年12月28日(2017.12.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
可変表示を行う遊技機であって、
可変表示に対応する特定表示を表示可能な特定表示手段と、
段階的に変化可能な状態変化表示を表示可能な状態変化表示手段とを備え、
前記特定表示手段は、
期待度が異なる複数種類の表示態様により特定表示を表示可能であり、
前記状態変化表示の表示段階に応じて、複数種類の表示態様のうちのいずれかの表示態様に変化させて特定表示を表示し、
前記状態変化表示手段は、前記状態変化表示が特定段階まで変化すると、前記状態変化表示を特定態様に変化させて表示する
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（手段１）本発明による遊技機は、可変表示（例えば、第１特別図柄や第２特別図柄、演出図柄の可変表示）を行う遊技機であって、可変表示に対応する特定表示（例えば、アクティブ表示や保留表示）を表示可能な特定表示手段（例えば、アクティブ表示領域９Ｆや第１保留記憶表示部９ａ、第２保留記憶表示部９ｂ）と、段階的に変化可能な状態変化表示（例えば、メータ表示）を表示可能な状態変化表示手段（例えば、メータ表示領域９０）とを備え、特定表示手段は、期待度が異なる複数種類の表示態様（例えば、第１～第３態様）により特定表示を表示可能であり、状態変化表示の表示段階に応じて、複数種類の表示態様のうちのいずれかの表示態様に変化させて特定表示を表示し（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００がステップＳ８１０８，Ｓ８１０９を実行する部分。図４２（Ｂ）に示すメータ表示・アクティブ表示対応テーブルを参照）、状態変化表示手段は、状態変化表示が特定段階（例えば、第５段階）まで変化すると、状態変化表示を特定態様（例えば、特別表示）に変化させて表示する。

そのような構成によれば、特定表示の表示態様の変化が単調となることを防止することができ、興趣を向上させることができる。また、状態変化表示が特定段階まで変化したことを容易に認識させることができる。